

館報 教育記念館



100号記念 常設展示室紹介

再発見 とやまのひとづくり

富山県教育のあゆみに触れる 2F 教育記念室



江戸期「寺子屋」「こんか(米糠)がき」体験

時代別に貴重な写真や実物資料などを通して、楽しく、富山県教育のあゆみに触れることができるよ。



大正期「児童中心の教育」



昭和期「学童集団疎開」

次回は「ふるさとと優れた先人に会える 3F 郷土先賢室」を紹介します

主な内容

- ◎教育時評 答えはすべて自分の中にある
株式会社フジタ 代表取締役
FACTORY ART MUSEUM TOYAMA 館長 梶川貴子 …… 2
- ◎「館報」で振り返る教育記念館のあゆみ …… 4
- ◎後期恒例展から …… 6
 - 「児童・生徒によるものづくり展」「富山県造形教育作品展」「富山県中学校美術展」
 - 「退職厚生部富山支部作品展」「アイデアロボット展」「高校生ロボコンフェスタ」
 - 「ロボットづくり教室」
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 …… 8
令和5年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp <https://www.t-hito.or.jp>
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



答えはすべて自分の中にある

株式会社フジタ 代表取締役
FACTORY ART MUSEUM TOYAMA 館長
梶川 貴子

私は小さいころから言葉も少なく、勉強も大嫌い、スポーツはいたって普通、何かに熱中するというようなこともなく、ボーッとした子供でした。なので、このような教育時評に執筆をさせていただくのは、大変恐縮であります。

振り返ってみると今だからわかることが、多々あることに気付かされます。若い年代は無知のゆえ悩みを抱えやすい年代だと思います。もっと早く知っていれば良かった、と思うことがたくさんありました。ここで少しだけお伝えできたらと思います。

私が生まれた年は、昭和39年の東京オリンピックの年で、日本経済がこれから急成長していく頃でとても活気のある時代だったと思います。また、就職した時代はバブル経済の真ただ中の好景気でした。日本が未来永劫豊かになると信じ浮かれていた時代に大人になりました。

ただし、まだまだ男尊女卑の傾向が根強く、昭和9年生まれの父親は『女に教育はいらない』とまで言っていました。今思えばその言葉をうのみにし、従うしかなかった自分をとても反省します。ここ最近の『多様性』とか、『ダイバーシティ』とか、『マイノリティ』という言葉がその時代にあったなら、もっとやりたいことをやれていたと思います。

好奇心というエネルギー

今思えば私は小さなころから好奇心が旺盛な子供だったと思います。「あの川の先には何があるのだろう?」「宇宙の果てってどんな世界だろう?」と妄想することが日常で、小さいころ自宅近くの川沿いを一人で歩いていき、『暗くなっても帰ってこない』と家族が大騒ぎしていた思い出があります。帰ったらこっぴどく叱られました…。

好奇心とは新しいことや希少性に興味がわき、見たい、知りたい、行ってみたい、という衝動に駆られるのです。それは今も同じで、聞いたことがない言葉や、新しいシステムや、最新の通信機器など見たら思わず知りたくなります。それが結果的には、今の仕事においてとても役に立っているのではないかと思います。他人より新しいことを先にキャッチして試してみることが、モチベーションの糧になっているのは事実です。

マイノリティ（社会的少数者）

この言葉を初めて聞いたときは、とてもうれしくなったのをよく覚えています。まさしく『これは私のことだ!』と感じたからです。

「人と同じだとつまらない」「なぜ一緒に行動しないといけないのか?」「なぜ他人の評価や世間体でいちいち右往左往されないといけないのか?」などを考えても考えても答えが出てこなくて、『なぜなぜなぜ…』がずっと頭の中をぐるぐるしていた若い頃。マイノリティという言葉を知っただけで、ずいぶんホッとした気持ちになりました。今の時代でしたら、これが個性と言い切れると思いますが、30年前の時代は人と同じ行動、人と同じ人生を要求された時代でした。またそれが『常識』という刷り込みが強かったと思います。

その反動でしょうか、2017年には工場の一角をリノベーションをして、町工場ミュージアムを作っていました。

他人の苦言こそ宝言

学校しかり、会社しかり、町内しかり、他人と関わることを避けて通ることはできません。無人島で一人でサバイバル人生を選ぶなら別ですが・・・。

学校で楽しく盛り上がっている最中に、冷や水を差す教師がいるかもしれません。会社で苦手な上司や嫌味ばかりを言う同僚がいるかもしれません。目標にしていたことを達成して高揚している横で、「調子に乗っているんじゃない」という仲間がいるかもしれません。

これって実は大事なことなんです。他人の苦言こそ宝です。嫌味であろうが、いじわる発言であろうが、きちんと聞いてできれば「ありがとう」と言えるくらいの懐が必要です。

誰にもなにも言われなくなってしまうたら、手遅れです。褒めてくれる友人よりも苦言を申す人のほうが実は必要な人だったりします。でもそれがわかるのは時間が経ってからだったり、縁が切れてからだったりします。他人の苦言こそ大事に聞こう、と自分に言い聞かせています。

幸せの青い鳥はいないと気付いたら

日本はとても豊かな国です。物質的な欲求は満たされている国といっても過言ではないでしょう。それでもなにか物足りなさを感じる今の世の中です。

よくある話で、『白馬に乗った王子がやってくる』『幸せの青い鳥を探しに行く』など耳にしますが、最終的に『幸せの形』をしたものは向こうからのこのこ歩いてこないと腑に落ちたときから、人生がとても楽しくなりました。

『すべての答えは自分の中に潜んでいます。』自分がやりたいことは何か？自分が楽しいと感じることは何か？、と自問自答を繰り返さないとなかなか気付くことはできません。たとえ、気付くことができてそれが60歳であろうが、80歳であろうが、遅すぎるということはないとも言えます。十人十色、自分の生き方を決めてコーディネートできるのは、まさしく自分自身。自分の内なる声を聞いて、行動に起こしてみたら、とても豊かな時間を過ごせると確信した50代です。残された人生も、妄想して、行動して、経験を積み重ね、自分が喜べる時間作りを続けていきたいと思います。



第3回くだらないものグランプリ 優勝

『LOVE LOVEメリケンサック』

人と人の距離が遠ざかる中、誰とでも恋人つなぎになってしまう！社員の発想力と技術力が詰まった作品



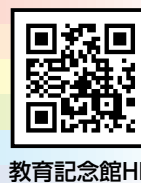
「筋肉系のYouTuberがやってきた！」

ファクトリーアートミュージアムトヤマの前で

おかげさまで 館報100号を迎えました



「館報」で振り返る
教育記念館のあゆみ



教育記念館HP

館内案内

- 5F 会議室、教育諸団体
- 4F 教育諸団体、収蔵庫
- 3F 郷土先賢室、教育諸団体
- 2F 教育記念室、会議室、ひとつくり財団、収蔵庫
- 1F ギャラリー、受付（管理事務室）
- BF 駐車場、他

入居団体一覧

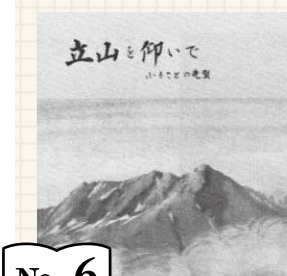


近代教育百年を記念して設立

富山県教育記念館は、昭和52年（1977）7月、教育百年を記念して建設されました。明治5年（1872）、学制頒布されて以来の近代教育の大きな流れを記念し、研究・展示などの活動を通じて教育の更なる発展に寄与しようとするものです。建設資金は県民の拠金と県の助成により賄われ、県・県民・教育界の三位一体の運営がはかられました（館報第1号より）。



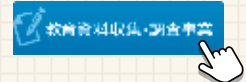
No. 1



No. 6

刊行物の作成始まる

立山を仰いで
—ふるさとの先賢—
（青少年向け郷土人物誌）
1～4集



教育記念館会議が開催される

—80年代の富山県教育を考える—
（S54.11～S60.6まで5回開催）

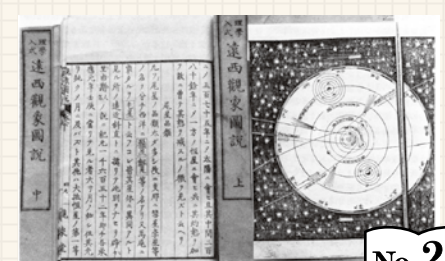


No. 19

舟木文庫に見る

ハレー彗星

舟木文庫をはじめとする寄贈された資料や古い教科書等を所蔵しています。資料は広く皆さんに活用されています。



No. 21

新しくなった常設展示室

創立10周年を記念し、高志会館の新築に合わせ、連携・活用しやすいように改装拡張工事が行われました。2F教育記念室では、ジオラマで寺子屋や明治の遠足を再現するなど、より見やすく分かりやすい展示になりました。



（HPもご覧ください）

No. 26

館報の内容（現在は年に2回発行）

- ・教育時評
- ・展覧会とその様子や声
- ・郷土の先賢顕彰者紹介
- ・わが校の歴史から
- ・催し物の案内 など（最近の館報をご覧ください。）



第1回「富山県中学校美術」展

県内全ての中学校86校より出品されました。令和4年度は33回を迎えます。



No. 34

「学童集団疎開」展

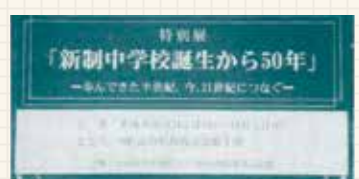
—戦火を逃れて富山にきた子どもたち—（終戦50周年）



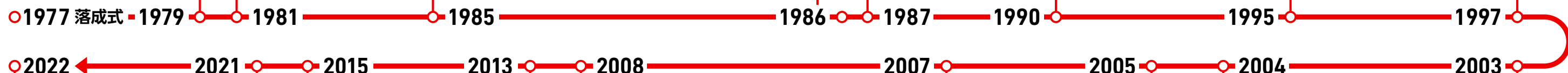
No. 45

「新制中学校誕生から50年」展

—中学校の半世紀を振り返り、21世紀の教育につなぐ—



No. 49



No. 99



とやまの教育史料「青い目の人形」展

県内に現存する「青い目の人形」7体を一堂に展示しました。一番右のお人形は当館で保管し常時展示しています。

No. 84



第11回「子どもの目・自然不思議発見写真」展

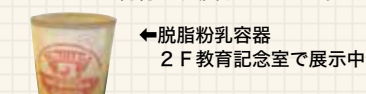
1Fギャラリーでは、子どもの目写真展をはじめ、年間を通して展覧会を開催しています。県内の子どもたちの創造性や夢を育む場、みんなで本県教育を考える場として利用されています。

No. 71



「富山県の学校給食90年の歩み」展

「健康・スポーツ部会」で調べ、まとめたものを刊行し、展示しました。



←脱脂粉乳容器
2F教育記念室で展示中

No. 69



「自然に育まれたとやまの教育」展

「特別部会」で調査研究し、まとめたものを刊行し、展示しました。

No. 64



常設展示室リニューアル

2F教育記念室にPC検索コーナーや映像コーナーを新設しました。

また、「郷土先賢部会」でまとめた先賢の業績をより明るく見やすく展示するため、3F郷土先賢室の Колトンや展示ケースを一新しました。

（HPから過去の顕彰者を検索できます）

郷土の先賢

No. 61

新しいスタート
平成15年の4月1日から、財団法人「富山県教育記念館」は、財団法人「富山県ひとつくり財団」という新財団のもとに再出発をいたしました。…これまでの事業はもちろん継続しながら、常に新しい方向を探りながら富山県教育の充実・発展に微力を尽くしたいと思います。（館報第61号より一部抜粋）

No. 63

オープニングでにぎわう「マセマティカル・ワールド」展

数学者の秋山仁先生が中心となって開発・製作された体験型大型教具を中心として体験できる展示です。現在は「さんすうワールド展」として開催しています。



新設 ノーベル賞紹介コーナー
田中耕一さんの受賞を記念し、ノーベル賞を身近に感じられるパネルやレブリカの展示が始まりました。

No. 97



「肖像画で見る郷土の先賢」展

当館で所蔵している肖像画100点の中からテーマに沿って選び展示しました。

No. 81



「富山県小学校教育140年の歩み」展（後編）

「教育資料部会」で調べ、まとめたものを刊行し、展示しました。

教育博物館としてのコンセプト（構想）

常設の展示施設は教育記念室と郷土先賢室の2室とし、史資料の収集を図るとともにテーマを設けて研究し、その成果を展示・刊行していくという基本方針が決められた。…現場の先生方を当館の専門員に委嘱しチームを組んで研究にあたり、記念室および先賢室の展示や刊行物の作成にあたった。1テーマに2年、3年と時間をかけることにより、専門の学芸員にはひけを取らない成果を上げることが出来た。（館報第82号より一部抜粋）

後期恒例展 ①



第13回 児童・生徒によるものづくり展

10月19日(水) ~ 11月13日(日)

県内には、高岡市のものづくり・デザイン科の取り組みをはじめ、伝統的、創作的な作品の製作に取り組んでいる学校が多く見られます。今年は、小・中・義務教育学校・特別支援学校・高等学校41校から209点の作品が展示されました。



- いろいろな市や村の人の作品を見る機会がないので、見る事ができて良かったです。
- 地域の伝統工芸を小学校の時から体験できるのは、恵まれているし、素敵なことです。自分の町に魅力や誇りをもてます。どの作品も個性があり、とても素敵でした。



第53回 富山県造形教育作品展

11月19日(土) ~ 12月4日(日)

幼児・児童・生徒らの感性豊かな作品が、67校(園含む)から271点集まり、展示されました。家族連れをはじめとして多数の来館者が、作品鑑賞を楽しみました。



- 造形教育が一番、想像力及び創造力等につながる。もっとこれらにかかる時間があればと願います。
- 学童での様子をかいた。子ども全員、学童の先生、皆のアイドルのカメ、バスもかいた。近くで見てほしいです。
- 県外から移住してきた。このような機会があるのはいいと思う。作品を見てみると、心が温まります。



第33回 富山県中学校美術展

1月20日(金) ~ 2月5日(日)

県内の国公立77校の中学生が、日頃の学習や部活動で制作した絵画や造形作品196点が展示されました。中学生の若き感性が豊かに表現された作品は、多くの来場者を楽しませました。



- 一人一人の作品にはそれぞれの思いが表現されていて、素晴らしいかったです。題名と合わせてみると、見方が変わって、より楽しく鑑賞できました。
- レベルが高く見応えがありました。こんな素敵な作品はもっと多くの人の目にふれてもいいのにと感じました。ワクワクしました。

退職厚生部富山支部作品展

10月2日(日) ~ 10月8日(土)



- コロナの影響で3年ぶりの開催でした。作品に触れ、気持ちが明るくなりました。



後期恒例展 ②

中学生・高校生・高専生が製作したアイデアロボット大集合

第18回 アイデアロボット展 12月10日(土)～1月8日(日) 12:00まで

生徒や学生の技術、ロボット製作にける情熱を知ってもらおうと、今年も中学校・高等学校、高等専門学校の11校から14点のロボットが展示されました。



高校ブロック



高専ブロック



中学ブロック



●全国大会で優勝したロボットも展示してあった。競技会で確実に成功するために、各学校にはいろいろな工夫があった。ロボットを操作する人も上手だと思った。

関連企画 令和4年度 高校生ロボコンフェスタ 12月11日(日) 12:00～15:00

工業高校生が製作したロボット等を、操作体験できる「高校生ロボコンフェスタ」が、今年は富山県民会館 地下1階 展示室で行われました。ものづくりの楽しさを味わうことができました。



●工業高校の様子が分かり、ためになった。
●細かい部分まで工夫されていて凄い。実用化されたら、便利だと思います。

関連企画 令和4年度 ロボットづくり教室 1月8日(日) 9:00～12:30



小学校4～6年生23名が、中学の技術・家庭科の先生方の指導のもとでサッカーロボットを製作。コントローラーを操作し、白熱した対戦を楽しみました。



●少し難しかったけど、知らない友達とも仲良くなれたし、ロボットを作ることができたので、参加してよかった。
●いろいろな道具を使ったので、たくさん学べてよかったし、楽しかった。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

令和5年2月16日（木）

※ 詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

富山市立上滝小学校

上滝は地域の文化財が豊富で、魅力のある地域である。郷土愛を育むため、実際に見学して調べ、体験する活動に取り組んだ。地域の方々との温かいつながりの中で地域に対する思いが深まった。



富山市立音川小学校

地域の自然環境やそれを生かした産業の魅力を実感させるため、指導計画を開発し、学習環境を整えた。活動を精選し工夫して展開したことで、地域への思いを深め、受け継ごうとする態度が育った。



射水市立中太閤山小学校

SDGsの観点から既存の活動を捉え直し、守り育てる・住み続けられる・豊かさを守る等の視点を新たに加え活動を展開した。地域への思いを強め、より深く自分を見つめる機会となった。



高岡市立川原小学校

今年創校121周年を迎え、R6年度3小学校が統合し新小学校となる。異世代交流、高西中校区3校交流プロジェクト、異学年交流等の交流学習を通し、ふるさとへの愛着を深め、当事者意識が高まった。

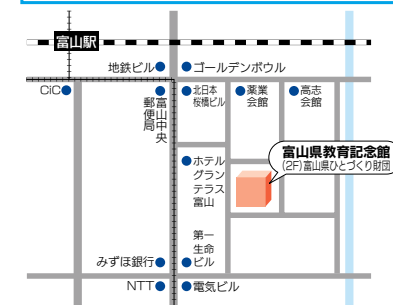


南砺市立城端小学校

地域の人々の熱い思いと協力のもと、小中9年間を見通し「ふるさと南砺科(城端学)」の年間指導計画を作成し展開した。交流を通して地域への愛着を深め、貢献したい思いを高めた。



「学ぼう！ふるさと未来」の活動は未来の地域を担うひとづくりにつながっていると改めて感じます。
教育記念館耐震改修工事のため、下記の展示計画の通り、4月から1階ギャラリーでの展示は休止ですが、常設展はご覧になれます。是非お越しください。



令和5年度の展示計画

4月～9月

- ◆第21回「さんすうワールド展」(小ギャラリー)
- ◆第37回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第14回「児童・生徒によるものづくり展」
- ◆第54回「富山県造形教育作品展」
- ◆第19回「アイデアロボット展」
- ◆第34回「富山県中学校美術展」
- ◆第20回「子どもの目、自然不思議発見写真展」

耐震改修工事のため展示休止

- 7月21日(金)～8月22日(火)
- 10月1日(日)～10月7日(土)
- 10月18日(水)～11月12日(日)
- 11月18日(土)～12月3日(日)
- 12月9日(土)～1月7日(日)
- 1月19日(金)～2月4日(日)
- 2月9日(金)～3月10日(日)

富山駅
近く



会議室を一般の方に安価でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。

<https://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください！

公式Twitter

https://twitter.com/t_hitozukuri

財団の取組みや富山県教育記念館の展示情報を掲載しています。ぜひ、フォローをお願いします。



教育記念館HP

<https://www.t-hito.or.jp/>

随時更新しています。

